

## 論文審査の要旨

報告番号	甲・乙 第 3193 号	氏名	黒岩澄志
論文審査担当者	主査 渡邊 知映 副査 三村 洋美 副査 中村 大介		
(論文審査の要旨) 本研究は婦人科がん術後患者 44 名を対象として、術後早期リハビリテーション介入による筋力、運動耐容能、不安、健康関連生活の質 (HRQOL) の効果を検討した。評価項目は筋力 (膝伸展筋力)、運動耐容能 (6 分間歩行距離)、不安尺度 (STAI)、HRQOL (EORTC QLQ-C30) を用いた。リハビリテーション介入の有無に関わらず対照群、介入群ともに筋力、運動耐容能、HRQOL の多くの項目で術前と比較すると有意に低下しているが、特に対照群の平均値は退院直後日常生活に支障を来す筋力と運動耐容能を下回っていることが明らかになった。介入群では、その低下を最小限にすることができることが示唆された。さらに、リハビリテーションを実施することによって筋力、運動耐容能、倦怠感、痛みなどが改善し、手術や入院による機能低下を予防する効果が認められ、HRQOL との関連も示唆された。婦人科がん術後早期のリハビリテーションについては先行研究に乏しく、本研究結果より術後早期にリハビリテーションの介入の筋力・運動耐容能の維持への効果が明らかになり、学位に相当すると判定した。			

(主査が記載、500 字以内)